

科目名	産業心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)			ナンバリング	858260	授業形態	0
対象学年	1・2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	大島典子○	担当教員					

授業の概要	<p>ストレス社会といわれる現代社会において、心理士が求められる役割は増加している。公認心理師がストレスチェック実施者となれることも加えられ、これからの心理援助を志す者に、産業領域に関する心理学的知識は不可欠である。</p> <p>本講義では、産業領域に特化したストレスや、疾患、近年注目されている発達障害、過労死や自殺の予防などを取り上げ、現代社会の産業領域での問題を学んでいく。そこから心理援助職として身に付けておかなければならない「労働現場」に対する知識、産業領域における臨床心理学の専門家としての役割、産業領域で対象者及び企業などの組織に関わる際に必要な技法や心構え、役割、連携と倫理について理解する。</p>
到達目標	産業現場で心理士の専門性を活かすために必要な姿勢と知識を理解し、説明することができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	ニュースなどからも産業現場で生じる出来事について理解を深めておく
ディプロマポリシーとの関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】
	○ 1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。
	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨症的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。
	3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。
	○ 4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。
	5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1) 産業現場で心理士の専門性を活かすために必要な姿勢を理解できる 2) 産業現場で心理士の専門性を活かすために必要な知識を理解できる	1) 産業現場で心理士の専門性を活かすために必要な姿勢を説明することができる 2) 産業現場で心理士の専門性を活かすために必要な知識を説明することができる

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○			30%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○			40%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		30%

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	職場における問題に対して必要な心理的支援	近年の労働現場をめぐる心理学に関する問題1 ストレス	
	第2回	職場における問題に対して必要な心理的支援	近年の労働現場をめぐる心理学に関する問題2 精神疾患・過労死・自殺	
	第3回	職場における問題に対して必要な心理的支援	近年の労働現場をめぐる心理学に関する問題3 精神疾患・過労死・自殺	
	第4回	職場における問題に対して必要な心理的支援	近年の労働現場をめぐる心理学に関する問題4 精神疾患・過労死・自殺	
	第5回	職場における問題に対して必要な心理的支援	職場における心理臨床アプローチ1 メンタルヘルス不調者のアセスメント	
	第6回	職場における問題に対して必要な心理的支援	職場における心理臨床アプローチ4 ストレスチェック制度	
	第7回	職場における問題に対して必要な心理的支援	職場における心理臨床アプローチ3 厚生労働省の指針	
	第8回	職場における問題に対して必要な心理的支援	職場における心理臨床アプローチ4 ストレスチェック制度	
	第9回	職場における問題に対して必要な心理的支援	職場における心理臨床アプローチ4 ハラスメント	
	第10回	職場における問題に対して必要な心理的支援	職場における心理臨床アプローチ5 復職支援とリワークプログラム	
	第11回	職場における問題に対して必要な心理的支援	職場における心理臨床アプローチ5 復職支援とリワークプログラム	
	第12回	職場における問題に対して必要な心理的支援	1から11回までのまとめ	
	第13回	組織における人の行動	動機づけ理論	
	第14回	組織における人の行動	リーダーシップ、組織風土と文化	
	第15回	組織における人の行動	13、14回のまとめ	
	試験	なし		
授業の進め方		毎回の内容に先立って課題を提示する。講義は各自が作成してきたレポートをもとにしたディスカッションが中心となる。		
授業外学習の指示		毎回、内容を復習するとともに学んだことの整理をする(90分)。さらに、次回の実習課題について、疑問点を調べておくこと(90分) (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	適宜、講義内で紹介する。
参考書	適宜、講義内で紹介する。
参考URLなど	適宜、講義内で紹介する。
その他	